

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金  
令和2年度 第4回理事会議事録

1. 開催日時 令和3年3月24日(水) 13時30分から14時50分
2. 開催場所 ZoomによるWeb会議  
福井市文京3丁目9番1号 福井大学文京キャンパス総合研究棟 I R13
3. 出席者 理事総数 11名  
出席理事 7名  
【Web会議による出席】  
理事長 細谷龍平  
【Web会議による出席】  
理事 小谷孝一、川上亮介、黒原繁夫、大正公丹子、馬來田善資、松田 透  
監事総数 2名  
出席監事 2名  
監事 堂 裕司  
【Web会議による出席】  
監事 馬來田善準  
陪席者 1名  
【Web会議による陪席】  
一葉正樹(福井県総務部大学・私学課主事)

4. 議 題

審議事項

- 第1号議案 150周年事業の回顧と展望
- 第2号議案 令和3年度事業計画(案)及び予算(案)について
- その他

5. 定足数の確認

理事総数11名中7名の出席があり、定足数を満たしていることを確認した。

6. 議事概要

第1号議案 150周年事業の回顧と展望

議長から、以下の諸点について報告があり、全員異議なくこれを承認した。

・令和2年度の報告

150周年が佳境に入っている。2年度事業は、助成事業、直営事業ともにコロナ禍の影響を大きく受け、多数の事業が中止ないし内容変更となった。内容変更はコロナ禍に合わせてのオンライン実施への変更などである。

直営事業は、1) 大学生論文コンクールは中止、2) ラトガース大学一行を迎えての「グリフィスの福井」に係る国際シンポジウムの開催(福井大学との共催で、福井県観光連盟からの助成を当初予定、基金の負担はシンポジウム冒頭で上映する令和元年度のテレビ番組制作)は、実訪問は無くなったため本年1月にオンラインに切り替えて開催(経費は大学の軽微な負担で済んだので基金の収益表には現れない)、3) 主力事業の「福井で見るサンタの夢」は、県内小学生から1,241点の応募を得た福井の偉人似顔絵コンテストを実施、当日の行事はコロナ対策でYouTubeでライブ配信した結果、全体で66万円の支出となったのに対し、約39万円をクラウドファンディングを含む各種募金活動で回収、基金負担は約27万円となった。初めて行ったクラウドファンディングは、24人から32万円(手数料を差し引いて27万円)のご支援を頂いた。また講演活動などの際に募金箱を使って若干の寄付を得た。

以上の諸活動を通じ、広報面や労力を含めた in kind の協力を各方面から一方ならずいただいた。

今年がクリスマス事業を150年後に再現する本番の年となる。今後クリスマス事業を地域の事業として定着させ、地域の振興に貢献できるものにしていくために、資金と人手をいかに動員し、機運を盛り上げていけるかが課題になる。

## 第2号議案 令和3年度事業計画（案）及び予算（案）について

事務局から、資料に基づき、令和3年度事業計画（案）について説明があった。

議長から、以下の諸点について補足があった。

助成基準については、コロナ禍を契機として、ポストコロナの国際交流のあり方を踏まえた全体的な見直しを行う必要がある。しかしポストコロナの具体的なあり方は今後まだ展開と模索が続いていく。また、事業の区分によって性格が異なるため一律の基準を全体に当てはめることにも困難がある。助成事業は1件あたり原則50万円を上限とし、また申請団体が一定程度の自己負担をすることを前提とするなどの基本的なルールは維持ないし導入していきたい。その上で、3年度は過渡期間と位置付け、2年度までの助成実績はある程度尊重して激変は緩和し、ポストコロナの新しい助成基準も暫定的に予見してバランスをとった助成額になっている。今後拡大が予想されるオンラインやハイブリッドでの交流は実交流に比べて経費は大幅に少なくなる面もある。それらのことも総合的に勘案して、今後はそれぞれの事業にどの程度の助成を行うか、さらに状況を見て考えていきたい。令和4年度にはある程度しっかりした新しい助成基準を決めたいと考えている。

事務局から、令和3年度の経費について運用が変更になった場合は、その都度基金事務局の了解を得た上での対応となり、予算案については変更になる可能性があるとの説明があった。

事務局から、令和3年度予算案について資料に基づき説明があった。

次に議長から、今回は特に当基金を今後中長期にどう運営していくかという大きな戦略的な問題について各理事の意見を仰ぎたいとして、以下の通り述べた。

当基金の財政は従来の基本的に大きな新規の出資ないし寄付は得られない状況のままこのまま推移すると、毎年平均して事業費約300万円、管理費約200万円、計約500万を財産から引き続き切り崩していく事になる。単純計算ではあと5年で期末残高が1億6000万円まで下がる。そうすると、県と市からそれぞれいただいている4000万円の出捐金が全体に占める割合が25%を超えて、公益財団法人である当基金の会計に対する法令上の取り扱いが変わり、監督官庁（県）による監督の度合いが強まるものと理解している。そうなった暁には、当基金を福井県として引き続き存続させるのか、存続させる場合にはどのような形にしていくのかについての抜本的な判断を迫られることに早晚なるのである。上記でご報告した通り、2年度には150周年事業と絡めて現状では精一杯の広報と募金活動を展開したし、3年度もその努力は続けるが、率直に言って、現行体制では基金の財政基盤を拡大することはおろか、維持することも至難の技である。この状況を抜本的に立て直すためには、まずは上記のクリスマス事業を地域の行事として定着させることが鍵になると考えている。しかしそのためには本事業に対する地域の関係方面による幅広い理解（特に行政による本件の政策的な意義に対する理解）と積極的な協力を得られる基盤、就中、人的なネットワークの基盤が強化され、地域全体としての機運が高まる必要がある。私を含めて関係者が無償の兼務でやってきている現行体制の基金が単独でできることには大きな限界がある。

その上で、今後基金の資金的基盤を拡充する手立てとしては、次の各形態が考えられる。1. 各種ソースからの寄付を獲得していく（これは現在の諸状況から大きな制約あり）、2. 基金設立時に寄付ないし出資をした支援団体から追加の出資を得る（これも、資産の運用益は全く上がらない昨今の金融情勢では困難）、3. 特定事業への補助、支援を行政または民間から募る（これもこちらからの働きかけのみでは困難。去年基金から福井市などの賛同も得て応募したが不調に終わった、コロナ禍を受けた補正予算による国からの新規観光誘客事業の募集や、新幹線の福井開通に伴う地域振興事業など、時代の流れに乗った機会が到来するのをとらえた地域連携によるイニシアティブが必要）、4. 連携機関との共催事業を立てて、基金と同方向に向けた他団体の関与をさらに得ていく、5. 一定の収益事業を実施していく（これについては県と、公益法人協会ともご相談しており、ゆくゆくは県の公益認定委員会による新規事業への認定を得て、必要に応じて定款も変更し、税法上の手続きも含めて正式の収益事業を立ち上げることを念頭に、3年度は、新規事業ではなく、現行の150周年事業の一環として、法人税の課税には至らない単発で軽微な物品（クリスマスグッズ）の販売を試験的に行うことを検討している）。

これに対して各理事と陪席者から、概ね賛同の意が表明された中で、次のような有益な意見や提案があ

った。

・福井県、福井市、福井大学が姉妹提携している機関と連携し、発展させる、・認知度を上げる、・地道な取り組みが近道、・福井市郷土歴史博物館やグリフィス記念館で広報を含めて協力を得る、・クラウドファンディングは口コミで人数を集める、・基金を活用した学生や学校を通してもっと広げる、・収益事業やオンラインが広まっている時代のため、何か工夫しながら存続できるようにする、・交流の時に日下部・グリフィスのことを伝承し、知名度を広げて交流を深める。

議長より、これらの意見を多とした上で、それらのことはすでに全てやってきているが、理事会としてさらに取り組める具体的な方途について引き続き相談して行きたいと述べた。

以上をもって議事を終了し、閉会した。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、出席した理事長及び監事は次のとおり記名押印する。

令和3年3月24日

公益財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金

議長 代表理事（理事長） 細 谷 龍 平 ㊟

監 事 堂 裕 司 ㊟

監 事 馬 來 田 善 準 ㊟